



水沢公園再整備事業（仮称） 【公園概要資料】

2025／8／18 時点素案



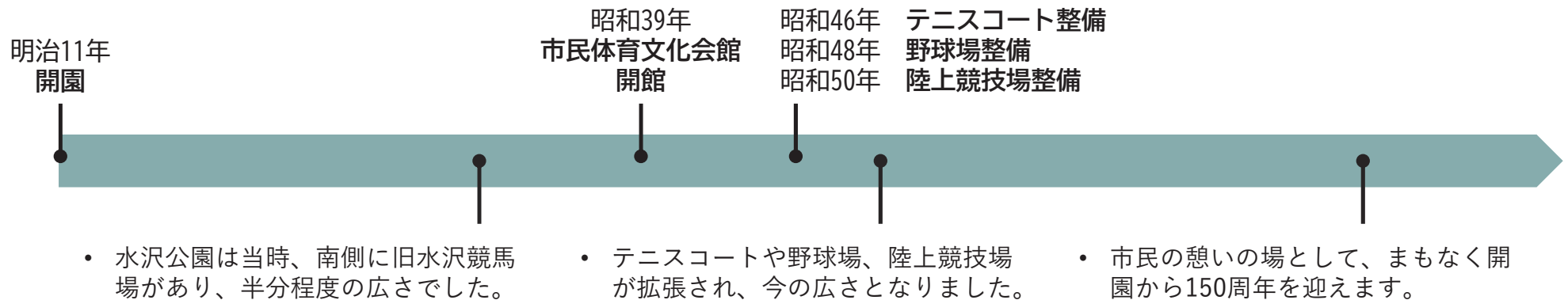
奥州市 Oshu City



0. はじめに	P1
(1) 再整備計画策定の背景	P1
(2) まちづくりにおける水沢公園の役割	P2
(3) 水沢公園再整備の対象区域	P3
1. 水沢公園及び周辺環境・施設の現状	P4
(1) 水沢公園の概況	P4
(2) 敷地概況	P14
(3) インフラ現況	P20
(4) 公園及び園内公共施設の利用概況	P22
(5) 周辺環境・施設の整理	P25
2. 水沢公園再整備に関わる利用者ニーズ	P29
(1) 過年度アンケート結果	P29
(2) 住民ワークショップ	P31
3. 水沢公園再整備に向けた検討課題	P32
(1) 誰もが気軽に立ち寄れ、柔軟に利用できる公園づくり	P32
(2) 誰もが安全・快適に過ごせる公園づくり	P35
(3) 奥州市・水沢市街地の魅力を高める公園づくり	P37

(1) 水沢公園再整備の背景・目的

- 水沢公園は、明治11年造園家蓑虫山人の設計施工により開園が始まり、昭和40年代に野球場、陸上競技場及び市営体育館を備えた総合公園として整備され、昭和53年に現在の形で供用開始し、春は桜を含む花の名所、夏から秋にかけては小学校の遠足場所や各種スポーツ大会が開催され、長年市民の憩いの場として親しまれてきました。
- しかしながら、明治期から移植を行った**桜の樹勢低下や、公園施設の老朽化**が顕著であること、また奥州市の中心市街地に位置する総合公園として**多様化するまちづくりの課題解決に向けた「質」向上が必要である**ことから、**本公園を賑わい創出や地域コミュニティの拠点とするべく、官民連携による再整備**を行います。



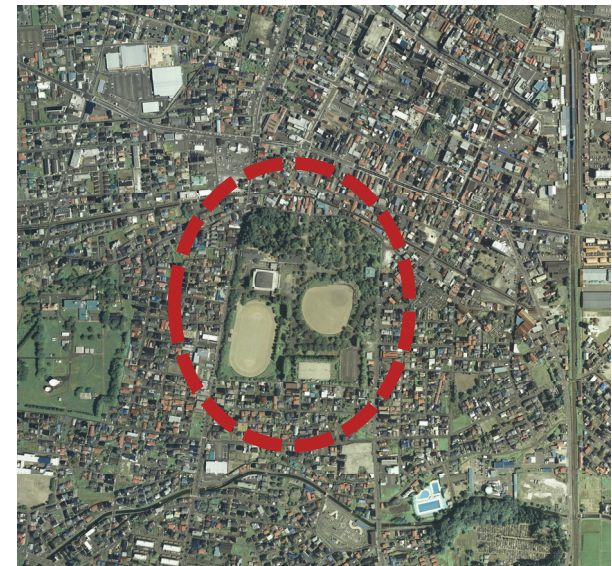
昭和23年



昭和53年

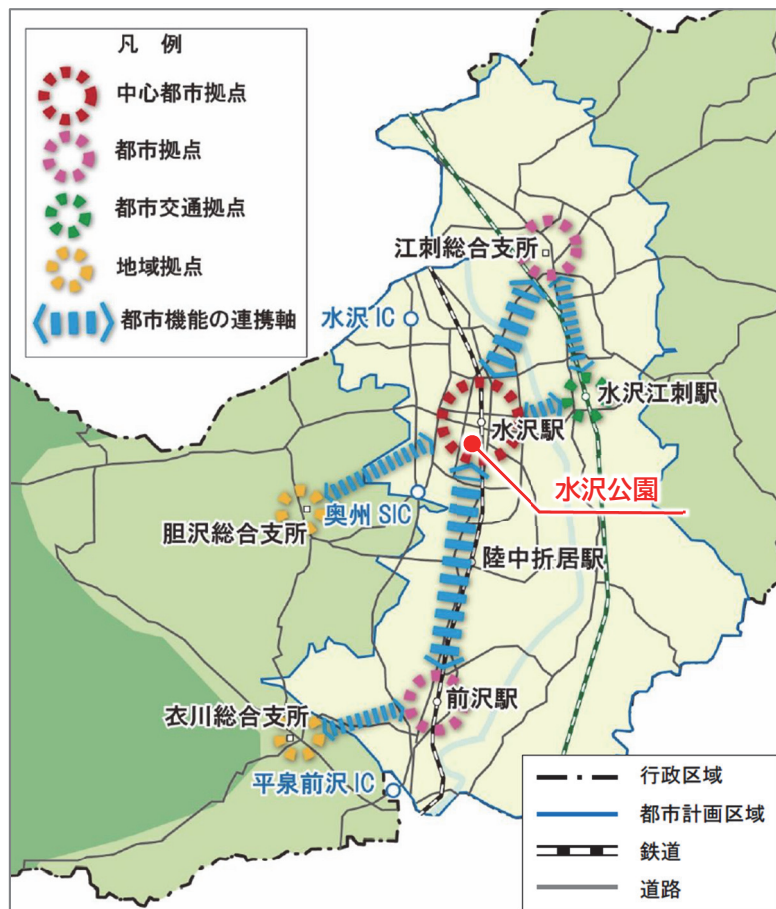


平成28年



(2) まちづくりにおける水沢公園の役割

- 水沢公園は、令和6年3月策定の「奥州市立地適正化計画」において、本市のまちづくり方針である「地域ごとに奥州市の歴史・文化の魅力がある**住み続けたいまちなかの創出**」の推進に向けた中心都市拠点（水沢市街地）の都市機能誘導区域として位置付けを行っています。
- また本市では、自然、産業、文化、歴史などの魅力的な資産を有効活用したまちづくりを効果的に進めるべく、「奥州市未来羅針盤図」を作成しており、その中の重点プロジェクトの1つである「水沢市街地エリアプロジェクト」において、水沢公園は「憩いの場」「健康づくりの場」「子育て空間」の**3つの役割**を担うことが求められます。



(3) 水沢公園再整備の対象区域

- 水沢公園の再整備にあたっては、新医療センターの整備予定地である「水沢公園陸上競技場」に加え、公共施設再編により将来的な建替え等が検討されている「水沢体育館（①）」及び「高野長英記念館（②）」、さらに公園施設の機能性や利便性向上を見据えた将来的な整備用地確保の観点から、「テニスコートや駐車場を含む公園南部エリア（③）」については、本事業区域の対象区域から除外します。
- これらを踏まえて、**本事業では右下図の赤枠（約6ha）の区域を対象に再整備計画の検討**を行います。

第6章 施設の整備場所

建設場所は、**水沢公園陸上競技場**とします。

- 公共交通の利便性の高さ、国庫補助金活用の観点から市街地を選択
 - ・高齢者の利用頻度が高い公共交通の利用に有利。
 - ・コンパクトシティを促す立地適正化計画エリア内で国庫補助金の活用が可能。
- 陸上競技場なら市有地であり水沢公園との相乗効果にも期待可能
 - ・市有地であれば、用地取得費が不要で、低コストかつ速やかな着工が可能。
 - ・施設規模に対し、駐車場を含めた敷地としての広さがちょうどよい。
 - ・リニューアル予定の水沢公園との隣接で、健康づくり等の相乗効果に期待。
 - ・水沢市街地エリアプロジェクトの狙いにも合致。

水沢市街地エリアプロジェクト

- 賑わい創出
市中心の賑わい、利便性の高い居住空間
- 子育て環境
安心安全の子育て・医療環境
- ウォークラブル
教育・医療・商業・公共の集約、徒歩生活空間創出
- エリア連携
江刺市街地・水沢江刺駅とのアクセス強化

開発コンセプト

- メイプルリニューアル
賑わい・学びの拠点
- 水沢公園リニューアル
新医療センター、子育て空間、健康づくりの場、憩いの場
- 駅前周辺の賑わいの創出
イベント、マルシェ、オープン化

水沢公園リニューアル

駅前周辺の賑わいの創出

徒歩で生活可能なウォークラブル空間の創出
※駅から徒歩10分（500m）圏内

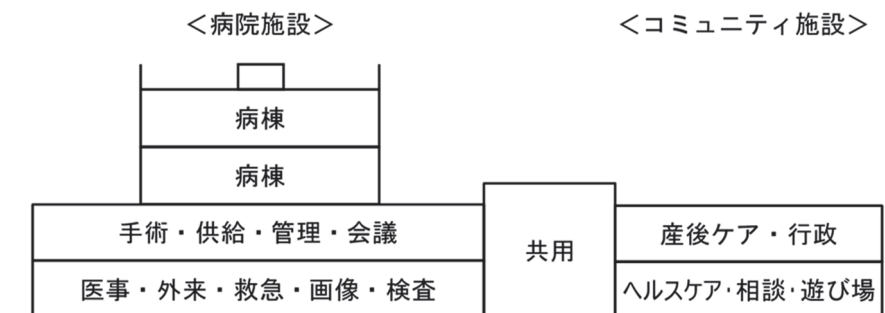
「コンパクトシティ」とは

生活利便性の維持・向上を目的とし、居住や生活サービス機能の集積化を図る都市構造をいいます。人口減少や高齢化が進むと、買い物、医療・福祉などの生活サービスの維持が将来困難になることが予想されます。そのため、コンパクトシティ化で都市機能なるべく集約し、住民の生活を守っていくという考え方です。

陸上競技場に建設する具体的なメリット

- 国庫補助金の活用 ⇒ 約20億円
- 用地取得費・造成費の経費縮減 ⇒ 約4.5億円
※ 水沢東バス沿い25,000㎡で試算
- 事業期間の短縮（農地を取得した場合との比較）
⇒ 用地取得で18か月、造成工事で12か月の短縮

【建物の構成イメージ】



※「奥州市新医療センター整備基本計画(修正版)」より抜粋

